



## 心に優しさの雨を ～ふれあい月間～

副校長 千住 希望

夏の日差しがきらきらする日は、塗装しなおしてきれいになったプールに子どもたちのきらきらする笑い声が響いています。梅雨明けまであと少しです。東京都では、毎年6・11・2月に「ふれあい（いじめ防止強化）」月間という取組を行っています。この月に学校はいじめの状況について総点検を行い、現状の把握やそれまでの取組の効果を把握します。また、これによりいじめの早期発見・早期対応、未然防止等につながる具体的な取組を実施します。

新年度、新しい先生や友達、教室に緊張しながら、「がんばろう」と心ひそかに決意して過ごしてきた子どもたちも、6月も後半になると、少し疲れが見えてきました。体調を崩してしまう子、友達とよくケンカをしてしまう子、朝から元気のない表情の子……。雨の日が増えて、教室で工夫して遊ぶ子どもたち。休み時間にトラブルが起きることもあります。それぞれ違った考えや思いをもつ、とても大切な一人一人の存在として、自分を見つめ、互いを知り合い、受け止める方法を学ぶのが学校であると考えます。

先日、ある学級で道徳の授業を見ました。それは、学級会で「みんなと仲良くなるための学級集会」を考える話し合いの中、一部の「声の大きな」「人気者」の子ども意見が、クラスの主流の意見となり、小さな声の意見は通らず、消されていくというお話がテーマでした。子どもたちは、まるで自分たちのことのように、異なる考えをどう受け止めたらいいか、真剣に話し合っていました。

また、別の学級ではみんなでお世話をしているモンシロチョウが羽化し、窓ぎわをひらひらと飛び始めました。愛情をかけて育てていた担当の子どもたちは立ち上がり、窓辺に集まりました。開け放った窓から目の前の大きなポプラの木まで教室から飛び立ったモンシロチョウは、ポプラの葉に止まってしばらく教室のみんなにお別れを告げているようでした。「寂しい。」とつぶやく子を、そっと背中をなでながら「良かったじゃない。ちゃんと蝶になれたから。」と励ます子。見守る周りの子。普段は元気な声のあふれる教室が、しっとり優しさに包まれました。



子どもたちの毎日は、激動で、1日として同じ日はなく、小さな成長の瞬間の連続をぎゅっと濃縮したように過ごしています。その成長を見守り、手伝える教員という仕事はなんて幸せなんだろう、と私はいつも感じています。一方で、前述のような疲れている子どもや友達に暴言や暴力をしてしまう子どもには、そうなる理由があり、自分の気持ちとしっかり向き合う時間や手立てをつくったり、教えたりする必要があります。日々の道徳や国語のような教科での学びの他に、自分の状態を見つめるアンケート（Web Q U：3～6年）や学校生活に関するアンケート（全児童）をとったり、人権についての校長先生のお話を聞いて考えたりする機会をもちます。そして、心配なことを誰かに「相談する」ことが有効な手立てであると伝えます。ふれあい月間だけではなく、年間を通して、子どもたちに寄り添い、たくさん話を聞きたいと考えています。

### 【重点目標の取組について】

| よく考え進んで学習する   | 明るく思いやりのある  | 進んで体をきたえる  |
|---|---|--|
| <b>出 前 授 業</b><br>租税教室等、多くのゲストティーチャーをお招きして、出前授業を行いました。普段、教室では学習できないことや体験できないことが多く、子どもたちにとって貴重な経験となりました。 | <b>W e b Q U</b><br>W e b Q Uは「楽しい学校生活を送るためのアンケート」として、3年生から6年生の児童を対象に実施します。この結果を参考に、子どもたちがよりよい学校生活を送れるようにしていきます。個票につきましては、夏の面談の際に各ご家庭にお渡しいたします。 | <b>長なわプロジェクト</b><br>年間を通して行う「長なわプロジェクト」が始まりました。長なわの楽しさを味わわせ、体力向上へつなげることに加え、互いに励まし合い協力し合う心を育むことをねらいとした活動です。月に一度の「長なわ成果発表日」には、エントリーしたクラスが、真剣かつ楽しみながら技に挑戦しています。 |